

簡易茎頂接ぎ木法によるパッションフルーツのウイルスフリー化技術

生産

実装

品目:パッションフルーツ

労働生産性向上

概要

トケイソウ潜在ウイルス(PLV)に感染したパッションフルーツ植物体からウイルスフリー苗を得ることができる簡易茎頂接ぎ木法を開発した。無菌操作や特殊な施設は不要で、国内外の産地における導入が容易である。

背景・効果・留意点

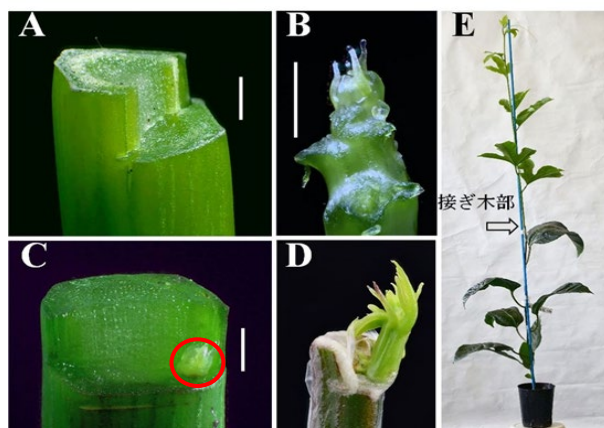
南米原産のパッションフルーツ(*Passiflora edulis*)はアジアではインドネシア、インド、ベトナム等が主要な生産国である。日本国内でも気候変動に対応できる作物として栽培地域が増えているが、トケイソウ潜在ウイルス(PLV)等ウイルス病の発生が問題となっている(図1)。主に挿し木による栄養繁殖のため感染が拡大しやすく、実用的なウイルスフリー化の技術が求められてきた。

このため現場へ容易に導入できる簡易茎頂接ぎ木法によるウイルスフリー化技術を開発した。この技術により、無菌操作や特殊な施設を用いずともPLVに感染した植物体からウイルスフリー苗を得ることができる(図2)。

原因不明のウイルス様症状についても本方法で症状が解消される場合があり、国内外のPLV以外のウイルスにも有効と考えられる。



図1 パッションフルーツの葉や果実におけるウイルス様症状



- A: 台木の準備
B: 穂木から切出す茎頂部(大きさ0.2~1.0mm)
C: 茎頂(穂木)を台木の形成層の上に静置後、フィルムで覆い乾燥防止
D: 接ぎ木後2週間~2カ月程度で発芽
E: 接ぎ木2カ月後(ウイルス検定供試可)

図2 パッションフルーツ簡易茎頂接ぎ木法の概要
A, B, Cのスケールは1mm

技術の詳細



国際農林水産業研究成果情報
(令和3年度)

https://www.jircas.go.jp/ja/publication/research_results/2021_c02

問い合わせ

greenasia-ml@jircas.go.jp

国立研究開発法人
国際農林水産業研究センター

